

職能別資格検定試験詳細規定
フリークライミング・インストラクター資格

平成 26 年 4 月 1 日
公益社団法人日本山岳ガイド協会
試験・研修委員会

インドアクライミング・インストラクター

●職能範囲

国内において人工壁におけるボルダリングからスポーツルートまでをインストラクター、コーチ、講師としての指導行為を有償で行うことができる。

●受験資格

- ・満 20 歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数 3 年以上の者。
- ・技術水準：
人工壁にて下記の経験
5.11c 以上のレッドポイント 30 本以上、および 5.11a 以上のオンサイト 20 本以上。

●受験の流れ

書類審査 → 適性審査 (2 日)

→ 人工壁研修と筆記 (3 日)

*書類審査、適性審査に合格した者は人工壁研修を受講できる。

●書類審査申請時提出書類

- ①書類審査申請書+顔写真 2 枚
- ②適性審査受験誓約書
- ③住民票
- ④クライミング歴報告書 (インストラクター歴、コンペ歴がある場合にはその報告書)
- ⑤健康診断書 (適性審査日より 1 年以内に受診したもの)
- ⑥山岳遭難保険加入証書の写し (*クライミングに対応する保険)
- ⑦受験料振込明細書 (写)

●書類審査、適性審査料

書類審査料 : 5,000 円、適性審査料 : 30,000 円 (2 日)

●適性審査 (人工壁 2 日)

5.11a 程度のオンサイトトライおよび 5.11c 程度のレッドポイントトライを行う。また指導者としての適性能力の審査を行う。

ボルダリング、トップロープクライミング、リードクライミング、ビレイ、ロープワーク等クライミングに対する理解度と安全管理に関する認識。用具の知識。ルールとマナー等について以上を A.B.C の 3 段階評価で行う。

●人工壁研修受講時提出書類

- ①研修受講申込書
- ②研修受講誓約書
- ③最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

●人工壁研修の内容および費用

研修内容	研修場所	日数	費用	備考
ボルダリング、トップロープ、リードクライミングの指導、課題設定、ビレイの指導方法。人工壁での安全管理など	日本国内	3日	45,000円	

●受験者義務講習会

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習2日間	日本国内	2日	¥25,000	検定は行なわない 筆記試験を実施

受験者義務講習会は、インストラクターの安全管理にとって重要な科目となっている。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないため、予め講習会受講日程をよく把握しておくこと。

※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習2日間を受講している場合はこれを免除する。

●筆記（テスト2科目、小論文）

試験科目	出題内容
業務関連	①インストラクター概論 ②リスク・マネジメント ③フリークライミング概論と倫理
専門知識と安全管理	①クライミング技術について ②クライミングギアの知識 ③安全管理とマナー ④ファーストエイドに関する知識 ⑤スポーツ科学（トレーニング理論、故障とケア、栄養学）に関する知識
小論文	インストラクターの役割や責務、およびインストラクターの資質について問う

・適性審査、筆記、人工壁研修の参考図書：公益社団法人日本山岳ガイド協会刊

- (1) フリークライミング・インストラクター指導教本
- (2) 山のファーストエイド教本

●各科目の有効年数

書類審査、適性審査の合格有効年数は、修了書発効日または合格通知書発効日から3年目の当該日までとする。

怪我、病気等特別な理由で有効年数内に受講または受験が受けられない場合は、それを証明する書類を提出し、審議に諮り判定する。目安は1年間の追加猶予とする。

●インストラクター資格認定および入会手続き

全科目に合格し、かつ危急時対応講習会を修了した者へは資格認定通知書を発行する。認定通知書受給者でインストラクター業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続を行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらに資格証（本会正会員証）およびバッヂを付与する。

●インストラクターの資格更新について

資格更新は3年毎に2日間以上の資格更新研修を受講し、更新申請する。

（更新の流れ）①資格更新研修申請書+研修費納入⇒②更新研修⇒③更新研修修了書

怪我、病気等特別な理由で資格有効期限内に更新が受けられない場合は、それを証明する書類を提出し、審議に諮り判定する。目安は1年間の追加猶予とする。

なお、本会の資格重複者は資格ごとに資格更新研修が義務となる。

●適性審査および研修は受験者4名以内に対して1名の検定員を配置する。危急時対応技術講習会は別途定める。

スポーツクライミング・インストラクター

●職能範囲

国内において人工壁を含む、一般のガイドブック等（山と溪谷社、日本100岩場参照）でグレードと称され整備された岩場でのボルダリングからシングルピッチのスポーツルート（注）までをインストラクター、コーチ、講師としての指導行為を有償で行うことができる。

（注）ほぼすべてのプロテクションがボルトで構成されているが、1～2個のカムディバイスを安全管理のために補助的に使うルートに関してはスポーツルートとみなす。なお、トラッドルートはトップロープのみの指導に限る。

*但し、旧シングルピッチ資格からスポーツクライミング・インストラクター資格へ呼称変更により自動移行した者は旧シングルピッチ資格での職能範囲を認める。（トラッドのリード指導可）

●受験資格

・満20歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数3年以上の者。

・技術水準：

人工壁で下記の経験

5.11c以上のレッドポイント30本以上、および5.11a以上のオンサイト20本以上。

岩場で下記の経験

スポーツルートで5.11c以上のレッドポイント30本以上、および5.11a以上のオンサイト20本以上。

トラッドルートで5.10a以上の完登5本以上。

●受験の流れ

書類審査 → 適性審査 (2日)

→ クライミング技術と安全管理 : 講習 (2日) + 検定試験 (1日)

→ 筆記試験 (2科目、小論文) → 人工壁研修 (3日)

→ レスキュー技術 (セルフレスキュー) : 講習 (2日) + 検定試験 (1日)

*書類審査、適性審査に合格した者はクライミング技術と安全管理と人工壁研修を受験できる。

*クライミング技術と安全管理の可否に関わらず以降を順不同で可否に関わらず受験できる。

●免除規定

・本会のインドアクライミング・インストラクター資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「適性審査」「人工壁研修」が免除され受験できる。

・本会の山岳ガイドステージI以上、資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「筆記試験」、「レスキュー技術 (セルフレスキュー) : 講習・検定」が免除され受験できる。

●書類審査申請時提出書類

①書類審査申請書+顔写真2枚

②適性審査受験誓約書

③住民票

④クライミング歴報告書 (インストラクター歴、コンペ歴がある場合にはその報告書)

⑤健康診断書 (適性審査日1年以内に受診したもの)

⑥山岳遭難保険加入証書の写し (*クライミングに対応する保険)

⑦受験料振込明細書 (写)

●書類審査、適性審査料

書類審査料 : 5,000円、適性審査料 : 30,000円 (2日)

●適性審査 (人工壁 2日)

5.11a 程度のオンサイトトライおよび 5.11c 程度のレッドポイントトライを行う。また指導者としての適性能力の審査を行う。

ボルダリング、トップロープクライミング、リードクライミング、ビレイ、ロープワーク等クライミングに対する理解度と安全管理に関する認識。用具の知識。ルールとマナー等について以上を A.B.C の3段階評価で行う。

●実技検定試験時提出書類

①各実技の受験申込書

②実技検定試験受験誓約書

③最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

●実技検定試験および費用

講習・検定科目	講習場所	日数	費用	備考
クライミング技術と安全管理	日本国内	3日	¥45,000	講習2日、検定1日
＝上記科目の可否に関わらず次へ進むことができる＝				
レスキュー技術（セルフレスキュー）	日本国内	3日	¥45,000	講習2日、検定1日
延べ日数		6日	¥90,000	

●受験者義務講習会

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習2日間	日本国内	2日	¥25,000	検定は行わない 筆記試験を実施

受験者義務講習会は、ガイドの安全管理にとって重要な科目となっている。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないため、予め講習会受講日程をよく把握しておくこと。
※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習2日間を受講している場合はこれを免除する。

●実技検定試験内容

講習・検定科目	講習・検定内容
事前説明	①諸注意（顧客の安全管理、天候等の自然環境、岩場までのアプローチ、岩場の状況） ②ルールとマナー
クライミング技術と安全管理および指導法	①クライミング技術 スポーツで5.11a～5.11c程度のレッドポイントトライ トラッド（ジャミング技術とカムのセット技術）で5.10a程度のトライ ②支点の構築技術（ビレイステーションとカム類等） ③確保技術（リードとトップロープ） ④懸垂下降と仮固定 ⑤用具の説明 ⑥指導法 ⑦安全管理（危機管理、顧客のケア）
レスキュー技術（セルフレスキュー）	①事故発生時の対応 ②基本技術 ③搬送技術 ④引き上げ技術（2：1、3：1） ⑤降ろし技術 ⑥自己脱出技術 ⑦確保技術（ローダウン、ショートロープ等）
机上講義：本会の組織と資格制度について、職業倫理規範と安全管理責任、リスク・マネジメント、確保理論、過去の事故検証等（各項目約1時間、クライミング技術と安全管理およびレスキュー講習時に行う）	

●筆記試験2科目、筆記試験料15,000円（70%以上で筆記試験合格とする。）

試験科目	出題内容
業務関連	①インストラクター概論

	②リスク・マネジメント ③法律関係（自然保護法、旅行業法、道路運送法、土地利用に関する法律、その他法的責任について） ④フリークライミング概論と倫理 ⑤岩場に関する基礎知識
専門知識と安全管理	①クライミング技術について ②クライミングギアの知識（ロープ、カラビナ、ボルト、カム等） ③安全管理とマナー ④レスキュー技術と確保理論 ⑤ファーストエイドに関する知識 ⑥スポーツ科学（トレーニング理論、故障とケア、栄養学）に関する知識
論文	インストラクターの役割や責務、およびインストラクターの資質について問う

・適性審査、実技検定試験、筆記試験受験の参考図書：公益社団法人日本山岳ガイド協会刊

- (1) フリークライミング・インストラクター指導教本
- (2) 山のファーストエイド教本
- (3) 山岳救助マニュアル・認定ガイド編

●人工壁研修の内容および費用

研修内容	研修場所	日数	費用	備考
ボルダリング、トップロープ、リードクライミングの指導、課題設定、ビレイの指導方法。人工壁での安全管理など	日本国内	3日	45,000円	

●各科目の有効年数

書類審査、適性審査、講習・検定試験、筆記試験の合格有効年数は、修了書発効日または合格通知書発効日から3年目の当該日までとする。

怪我、病気等特別な理由で有効年数内に受講または受験が受けられない場合は、それを証明する書類を提出し、審議に諮り判定する。目安は1年間の追加猶予とする。

●インストラクター資格認定および入会手続き

全科目に合格し、かつ危急時対応講習会を修了した者へは資格認定通知書を発行する。認定通知書受給者でインストラクター業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続を行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらに資格証（本会正会員証）およびバッジを付与する。

●インストラクターの資格更新について

資格更新は3年毎に2日間以上の資格更新研修を受講し、更新申請する。

（更新の流れ）①資格更新研修申請書＋研修費納入⇒②更新研修⇒③更新研修修了書

怪我、病気等特別な理由で資格有効期限内に更新が受けられない場合は、それを証明する書類を提出し、審議に諮り判定する。目安は1年間の追加猶予とする。

なお、本会の資格重複者は資格ごとに資格更新研修が義務となる。

- 適性審査および研修は受験者4名以内に対して1名の検定員を配置する。講習・検定試験は3:1とする。状況に応じてさらに検定員候補生を配置することができる。危急時対応技術講習会は別途定める。

フリークライミング・インストラクター

- 職能範囲

国内において人工壁を含む、一般のガイドブック等（山と溪谷社、日本100岩場参照）でゲレンデと称され整備された岩場でのボルダリングからシングルピッチおよびマルチピッチ（注）までをインストラクター、コーチ、講師としての指導行為を有償で行うことができる。

（注）御坂・三ツ峠、奥多摩・越沢バットレス、伊豆・海金剛、姫路・雪彦山、大台ヶ原、小豆島・拇嶽、九州・屋久島などを除く。

- 受験資格

- ・満20歳以上で健康で体力があり、本会の定めるクライミング経験・技術水準を満たしクライミング経験年数5年以上の者。
- ・技術水準：
人工壁で下記の経験
5.12a以上のレッドポイント30本以上、および5.11c以上のオンサイト20本以上。
岩場で下記の経験
スポーツルートで5.12a以上のレッドポイント30本以上、および5.11c以上のオンサイト20本以上。
トラッドルート5.10c以上の完登10本以上。
下記各5本以上（全体の5割以上はリードしていること）
3ピッチ以上のスポーツマルチルート、3ピッチ以上のトラッドマルチルート。

- 受験の流れ

- 書類審査 → 適性審査（2日）
→ クライミング技術と安全管理：講習（2日）+ 検定（1日）
→ 筆記試験（2科目、論文）→ 人工壁研修（3日）
→ レスキュー技術（セルフレスキュー）：講習（2日）+ 検定（1日）

- マルチピッチとレスキュー技術（ワークレスキュー）：講習（2日）＋検定試験（1日）
- *書類審査、適性審査に合格した者はクライミング技術と安全管理と人工壁研修を受験できる。
 - *クライミング技術と安全管理の可否に関わらず以降を順不同で可否に関わらず受験できる。

●免除規定

- ・本会のスポーツクライミング・インストラクター（またはシングルピッチ資格からスポーツクライミング・インストラクター資格へ自動移行した者）資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「マルチピッチとレスキュー技術（ワークレスキュー）（講習・検定）」のみで受験できる。
- ・本会のスポーツクライミング・インストラクター資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「レスキュー技術（講習・検定）」、「筆記試験・論文」「人工壁研修」が免除され受験できる。
- ・本会の山岳ガイドステージⅠ以上、資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「筆記試験」、「レスキュー技術（セルフレスキュー）：講習・検定」が免除され受験できる。
- ・本会の山岳ガイドステージⅡ以上、資格取得1年以上で上記の受験資格を満たす者は「レスキュー技術（セルフレスキュー）（講習・検定）」、「マルチピッチとレスキュー技術（ワークレスキュー）（講習・検定）」「筆記試験・論文」が免除され受験できる。

●書類審査申請時提出書類（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●書類審査、適性審査料（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●適性審査（人工壁 2日）

5.11c 程度のオンサイトトライおよび 5.12a 程度のレッドポイントトライを行う。
他はスポーツクライミング・インストラクターと共通

●実技検定試験時提出書類（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●実技検定試験および費用

- ・クライミング技術と安全管理（スポーツクライミング・インストラクターと共通）
- ・レスキュー技術（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

講習・検定科目	講習場所	日数	講習料	備考
マルチピッチとレスキュー技術	日本国内	3日	¥45,000	講習2日、検定1日
延べ日数		9日	¥135,000	

●受験者義務講習会

講習項目	講習地	日数	講習料	備考
危急時対応技術講習2日間	日本国内	2日	¥25,000	検定は行なわない 筆記試験を実施

受験者義務講習会は、ガイドの安全管理にとって重要な科目となっている。本科目を受講しない場合には認定通知書が発行されないため、予め講習会受講日程をよく把握しておくこと。

※他資格を所持していて、既に危急時対応技術講習2日間を受講している場合はこれを免除する。

●実技検定試験内容

講習・検定科目	講習・検定内容
事前説明	スポーツクライミング・インストラクターと共通
クライミング技術と安全管理	①クライミング技術 スポーツで5.11c～5.12a程度のレッドポイントトライ トラッドで5.10a～5.10c程度のトライ 他はスポーツクライミング・インストラクターと共通
レスキュー技術（セルフレスキュー）	スポーツクライミング・インストラクターと共通
マルチピッチとレスキュー技術（ワークレスキュー）	マルチピッチ ①支点の構築（流動分散と固定分散） ②セルフビレイ ③セカンドのビレイ ④ダブルロープ操作 ⑤確保器具の解放技術 ⑥懸垂下降と仮固定 レスキュー技術（マルチピッチでのレスキュー） ①事故発生時の対応 ②基本技術 ③搬送技術 ④引き上げ技術（2：1、3：1、9：1） ⑤降ろし技術 ⑥自己脱出技術 ⑦ロープ確保（ローワーダウン、ショートロープ等）
机上講義：スポーツクライミング・インストラクターと共通	

●筆記試験（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●人工壁研修の内容および費用（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●各科目の有効年数（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●インストラクター資格認定および入会手続き（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●インストラクターの資格更新について（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

●適性審査、講習・検定試験時の検定員の配置について（スポーツクライミング・インストラクターと共通）

以上